

序章

1. これまでの経緯

札幌市における博物館の検討については、昭和61（1986）年に教育委員会において自然史系博物館の検討が始まってから、現在に至るまで、以下のような経過をたどっています。

年度	概要
昭和61(1986)年度	●教育委員会で自然史系博物館の検討を開始
平成8(1996)年度	●札幌市博物館基本構想委員会から「北・その自然と人」を基本テーマとする自然系総合博物館を目指す提言を受理 ●札幌市博物館建設準備委員会設置 ●リンクージプラザ5・6階に仮収蔵庫整備
平成9(1997)年度	●札幌市行財政改革推進計画に伴い、博物館活動を先行実施し、施設の建設については凍結することが決定
平成10(1998)年度	●学芸系職員1名を採用(古生物学) ●札幌市博物館建設準備委員会から、「北・その自然と人」をテーマとし、市民とのパートナーシップを基本とした博物館づくりを目指す内容と開館準備、活動計画に関する提言を受理
平成13(2001)年度	●平成10年の提言を受け、『札幌市博物館計画推進方針』を策定し、博物館整備に対する基本的考え方と方向性、開館準備期における博物館活動の指針を決定 ●上記の方針を受け、博物館活動を先行させるため、博物館活動センターを開設 ●学芸系職員1名を採用(植物学)
平成13(2001)年度～	●以降、博物館活動センターにて、様々な博物館活動の取組み開始
平成23(2011)年度	●第3次札幌新まちづくり計画(～平成26年度)がスタートし、これまでの博物館活動の成果を踏まえて、札幌の自然と人の関わりなどを市民とともに探究する、街や市民に開かれた新たな博物館計画を策定することを決定
平成24・25 (2012-13)年度	●上記の計画を策定するため、次世代型博物館計画検討委員会を発足。委員会8回、ワーキンググループ9回開催(総計)
平成26(2014)年度	●新たな『基本計画』の策定(予定)

2. 計画策定の目的

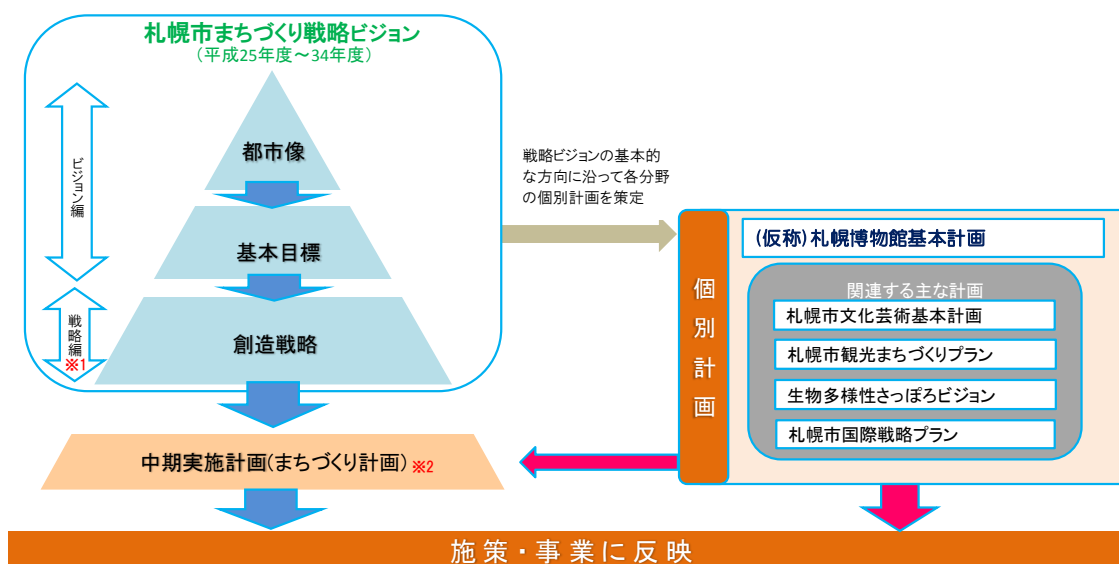
本市の博物館計画は、平成10（1998）年の提言を受け、平成13（2001）年に策定した「札幌市博物館計画推進方針」に基づき、博物館活動センターを開設し、現在まで10余年にわたり博物館活動を進めています。

その間、社会情勢や社会環境は大きく変化し、それに伴い博物館に求められる役割も変わりつつあることから、新たに博物館に関する基本計画を策定することで、これまでの博物館活動センターにおける活動成果や課題なども踏まえながら、市民とともに札幌の自然と人の関わりを探究し、札幌の未来に貢献する博物館を創り上げていくために必要と考える要点を整理していきます。

（今後、札幌市の目指す博物館を「(仮称)札幌博物館」と呼び、以降「札幌博物館」と表記します。）

3. 計画の位置付け

平成 25（2013）年度に、これまでの札幌市基本構想と札幌市長期総合計画に代わる最上位計画として策定された「札幌市まちづくり戦略ビジョン」を受けた個別計画に位置付けられます。



※1 まちづくり戦略ビジョン【戦略編】[平成 25～34 年度]における博物館計画の位置付け
第1章 創造戦略 第2節 産業・活力 創造戦略6 産業人材創造戦略
①将来を担う創造性豊かな人材の育成・活用 創造性や国際感覚豊かな人材の育成

※2 第3次札幌新まちづくり計画[平成 23～26 年度]における博物館計画の位置付け
政策目標 5 市民が創る自治と文化の街
重点課題 5-2 多彩な文化芸術の創造とスポーツを楽しむ健康づくりを推進するまちづくり
施策 5-2-1 市民が多彩な文化芸術に親しむとともに、自ら作り上げる文化活動の振興
事業名 次世代型博物館計画策定事業

「次世代型」博物館とは…

これまでの博物館は、保存を博物館の使命とした“第一世代”、そこに公開を取り入れた“第二世代”、更に、参加・体験を重視した“第三世代”の博物館に分類されています。札幌博物館では、企画・運営を含め、すべての博物館活動に市民が主体的に参画するという意味で参加・体験を越えた“次の世代”の博物館という意味や、市民や社会の要望に応えた ICT¹などの“次世代型”先端技術の利用、さらに、未来を担う次世代の子どもたちや市民の教育、学術、文化の発展に寄与する機関として、市民とともに札幌の自然を探求し、創造性を育む、街や市民に開かれた博物館という意味を次世代型博物館に込めました。

¹ ICT：Information and Communication Technology の略語。情報通信技術。IT（Information Technology）といわれる概念にほぼ一致する。